

総務市民文教委員会市内視察報告書

市内視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

平成28年4月1日

光市議会議長 中 村 賢 道 様

光市総務市民文教委員会

委員長 中本 和行

副委員長 大田 敏司

委 員 木村 信秀（副議長）

委 員 笹井 琢

委 員 田中 陽三

委 員 西村 憲治

委 員 林 節子

委 員 森重 明美

委 員 四浦 順一郎

随 行 高木真由美（事務局）

記

- 1 研修年月日 平成28年3月16日（金）10時～12時
- 2 視 察 先 （1）伊藤公資料館
（2）光市立図書館
- 3 調査結果等 別紙のとおり（資料含む）

総務市民文教委員会行政視察調査結果

○図書館

1 日時 平成 28 年 3 月 16 日（水）10：05～10：45

2 調査事項

クラウド型図書館システムの導入状況について

3 内容

3月1日にクラウド型図書館システムでの業務を開始した光市立図書館を視察し、システム再構築業務の導入状況等の説明を受けた後、カーリルタッチによる検索や、レシートプリンターによる予約システムの仕方について、実際にパソコン操作等を体験しながら、システム導入状況を視察しました。

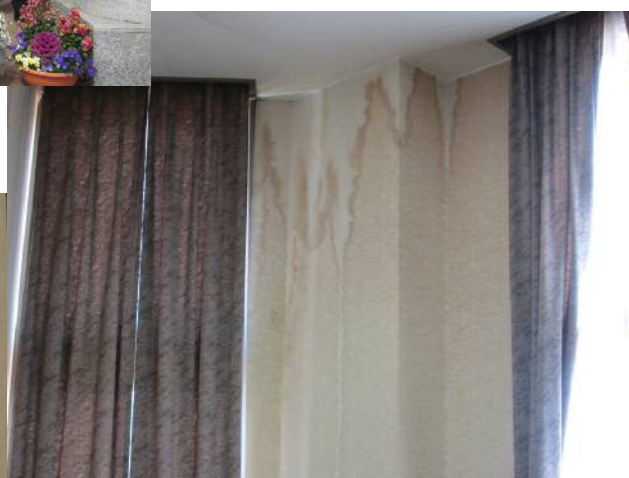




○伊藤公資料館

- 1 日時 平成 28 年 3 月 16 日（水）11：00～11：45
- 2 調査事項
伊藤公資料館における雨漏り箇所の現地確認について
- 3 内容
3 月補正で予算化した、伊藤公資料館の文化財コーナーや展示室、屋根桶な

ど、雨漏り工事箇所の現地確認をするとともに、伊藤公生家茅屋根の葺き替えの現況を視察しました。





＜主な質疑＞

問：レビュー機能は、誰でも書けるのか。悪質なレビューや無関係なレビューに対する対策はどうか。

答：管理者側で、レビューに対する指摘は出来るようになっているが、公立図書館なので、一般的なamazonとかの匿名性の高いレビューではなく、公立図書館の利用登録をした人が書いているレビューであり、さほど乱暴なことは書かないのではないかと考えている。

もし、あった場合でも、削除とか、評価出来ない等あるので、それに対応できるのではないかと考えている。

問：利用者は、当然、図書館で登録している人だが、レビューして、それを確認してから反映するのではなく、レビューした後、問題があれば、その後対応するという事か。

答：はい。利用者カードと合わせて、パスワードを登録していただき、その利用者カード番号とパスワードでログインしていただき、利用できるようになる。

問：家のパソコンからアクセスするのは、フリーアクセスか、それとも、暗証番号などか。

答：見たり検索したりするだけでしたら、フリーアクセスであり、予約やレビューを書くなど、マイ本棚を使う際に、ログインが必要となる。

問：システムについて、今後もこうした経費はかかってくるのか。

答：クラウド型システムは、今までは、基本的に、5年間のシステムの賃貸借での経費を要しており、5年後に更新が必要となっていた。

このたび、ハード面などのパソコン等は別として、システム自体は、基本的には、この金額で継続的に使用可能ということが、クラウドサービスのメリットになっている。

問：ホームページも一新されており、ホームページ作成部分の経費は、システム自体に一体化して組み込まれているのか。

答：再構築機能として、一体で、プロポーザルの提案を受け、トータルで組み込まれている。

問：3月1日からシステム稼働して間もないが、利用者の反響はいかがか。

答：検索のタッチパネルや検索端末に、レシートプリンターが付いたので、今までのように手書き予約等の必要がなくなり、簡素化され、使い易くなったとか、子ども向け端末が設置され、子どもだけで検索し、自ら調べることができるので、たいへん良くなったなどといった市民の皆様からの喜びの声をいただいている。

<委員所感>

所 感（中本 和行）

今回は、2か所の現地視察を致しましたので報告致します。

図書館は、オープン後38年を経過している最も古い施設であります。

この度は、中四国で初のサービス「カーソルタッチ」他、スマートフォンやタブレット端末を専用のプレートにタッチすると本に関する情報が得られるなど、新しくクラウド型図書館システムの導入。

富士通のデータセンターのシステムを利用することによって維持管理のコスト削減、災害時のトラブル防止、館内の図書検索端末も新たに、子供用の検索端末も新設されている。ホームページもリニューアルした。熱心な職員の取り組みを評価します。

今回、視察して自分でシステムを動かし良く解り勉強になりました。新システムの導入により、若者からお年寄りの図書館利用の増加に期待します。

次に、伊藤公資料館は、平成9年の開館以来一部老朽化が進んでおり、雨漏りの被害があちこちと、以前から雨漏りが進んでいたと思われる。

ここには、生家をはじめ、生涯を、遺品と映像と歴代内閣総理大臣の書他、貴重な資料が揃えてあり、伊藤公の生涯や素晴らしい業績を学習することが出

来る館であり、屋上の腐食している部分他、構造等に問題はないか、梅雨時期までに完了しなければならない。

所 感（大田 敏司）

去る3月16日に、光市立図書館がクラウド型図書館システムの新設をされましたので、総務市民文教委員会で視察をしました。

クラウド型図書館システムとは、端末を現地に設置し、外部にあるサーバーの一括管理をされ、全国の公立図書館同士がサーバーを共有しているという仕組みであります。全国でこのクラウド型図書館システムを共有されている、約200余りの公立図書館同士が本の共有をするという仕組みであります。

読者自身が、端末のパソコンを操作する装置です。現在、閉架されている本や、光市の図書館蔵書にない本であっても、全国約200余りの公立図書館に所有をされている本を探し出し、貸し出しが出来るというシステムで、読者にとって、現場に出かけられて本を探し回ることなく、希望する本が容易に手に取れる素晴らしいシステムだと思われます。

今後は、このクラウド型図書館システムを、是非ともいろいろな場面で、一人でも多くの市民に活用方法を広げられて、光市のたくさんの住民が図書館を十分に活用されるべき、啓発などを活発にしてほしいと思います。

この、クラウド型システムは、職員の維持・運用管理の手間が省け、災害時の業務継続対策にも有効だとされています。

また、伊藤公資料館の漏水が激しいとのことでありましたので現場の確認に行きました。視察に行きますと、確かに壁際に漏水の跡がはっきり見てとれ、漏水をしているのが解りました。

貴重な資料が展示をされているわけでありますので、これらの貴重な展示品を守るためにも、また、建物の老朽化を防ぐためにも、漏水を止める工事を一時も早く施工されるべきだと感じました。

今後も光市内の建設物について漏水が確認をされている個所については一刻も早く、早急に点検をされ、修復をされ、漏水をなくされることを願っております。

また、チェックのあり方もここで再確認すべきだと感じました。

所 感（木村 信秀）

<クラウド型図書館システムの導入>

クラウド型システム導入により外部のデータセンターにあるシステムを、サービスとして利用することができる。データセンター内には複数の公共図書館システムが同居していることにより、より一層多くのデータのサービス提供が可能となっている。また、耐災害性が高くなることもわかり、管理運用も容易であることが理解できた。図書館が市民のためより一層の利便性を高めていけるよう今後とも注視していきたい。

<伊藤公資料館 雨漏り工事箇所の現地確認>

伊藤公資料館は光市の貴重な文化遺産であると共に、未来の子どもたちの歴史教育にとって、貴重な資産である。この施設の老朽化が顕著であることを、あらためて知ることになり、一刻も早く改修することの必要性が理解できた。

所 感（笹井 琢）

＜光市立図書館＞

新しい図書館システムの導入により、予約手続の簡素化や書籍レビューなど機能が向上した。一方で、書籍配架場所の表示については未だ準備中、書籍表紙のスキャンについても蔵書の一部にとどまっており、期待される機能が発揮されていない。

図書館の書籍管理や貸出手続きについては、全国の図書館で行われている業務であり、システムを共通化することやデータをクラウド処理することは時代の流れである。システム更新による維持管理費の低減については、効果が認められる。

＜伊藤公資料館＞

平成9年に開館した伊藤公資料館。西洋風大理石柱で屋根を支えているようなデザインである。館内では老朽化による雨漏りが見受けられる。屋外からも屋上排水のオーバーフローが見受けられる。2階にあたる部分や天窓があるにもかかわらず、屋内から天井へ上がることができないことには驚いた。建築物の設計時においては、メンテナンス方法も考慮する必要があると感じた。

所 感（田中陽三）

図書館では、若者の図書離れに対応し、中四国初の「カーリルタッチ」を導入し、スマホ対応のホームページ立ち上げ、フェイスブックページも立ち上げ、興味をもって利用していただけるように新たな情報発信も始めた点は、既存の利用者にも魅力アップになるのではないかと思います。

また、クラウド化によって、事務所のサーバーが無くなりスペースが有効活用されている点、旧システムより年間経費が安くなっている点は、特に素晴らしいです。

館内を案内していただき、施設は老朽化していますが、展示方法や入口の職員直筆の黒板等々、ソフトの面でも職員の工夫と熱意が伝わってきて、非常に有意義な視察でした。

伊藤公資料館では、平成9年に開館し18年でこれだけの雨漏りが起こっている現状を見て、素人ながら、建設も含めて今までの防水補修工事もなんだったのかと疑問が残りました。工法の説明も受けましたが、今後は特にこういった公共施設の設計、工事に関しては、専門家の客観的なチェックが必要だと感じました。

所 感（西村 憲治）

＜図書館システム再構築＞

クラウド型システムは、使いやすくリーズナブルなシステムと感心しました。
色々な会合で、出前講座をお願いし広めることが大切だと思います。
図書館に足を運び、蔵書の充実、きれいな本に感心いたしました。

＜伊藤公資料館 雨漏り修繕＞

雨漏り箇所の説明を丁寧を受けて、建物の設計上の欠陥ではないかと感じました。

デザイン優先で、のちの保守保管の配慮がないと思います。
残念ですが、簡単な修理では雨漏りは解消しないと考えます。

所 感（林 節子）

＜クラウド型図書館システムの導入状況＞

当館は平成元年よりコンピューターシステムの導入の整備事業を開始。平成5年には国立図書館及び山口県立図書館蔵書のパソコン検索が出来るようになり、平成9年には、パソコン通信、平成13年には、インターネットによる蔵書検索を開始する。

検索が容易に出来ることにより、職員による維持、運用、管理の手間が省け災害時の業務継続対策に有効である。

このたびのクラウド型図書館システム導入により、業務管理が効率化され、更にカーリルタッチ導入で、スマートフォン等から図書館の本とインターネットの情報に簡単につながるようになる。

また、WebOPACの機能追加により、My本棚、表紙画像の表示、書評、レイティング機能があり、自分だけの「本のリスト」が作れるようになる。

子供向け図書検索も新設され、タッチパネルなので、パソコンが使えない子供でも簡単に操作できる。

そして、図書館専用ホームページも新設され、イベント等もいち早く知ることが出来る。

最後に、充実したシステム導入により、大人も子供も、本を選ぶ楽しみができ、読書力が上がるものと感じます。

＜伊藤公資料館の雨漏りの現場視察＞

伊藤公資料館は平成9年9月開館。このたび雨漏りの被害が急増しており、展示室の壁5ヶ所に大きな雨漏りのシミがみられる。早急な手当てと根本的な改修が必要と感じた。

今後、屋根の樋について改修するとともに、幕板のジョイント部のコーキング更新等が行われる予定。残すべき文化遺産を、大切に保存継承していくことが重要である。

所 感（森重 明美）

新システムを導入した「クラウド型図書館」の現地視察を行い説明及び体験操作等を行う。富士通マーケティングによるクラウド型システム導入による経費の削減効果は旧と比較して23%、130万円の減。中四国初のカーリルタッチの導入により本情報や図書館利用の利便性がかなり充実している。

様々なサービスが始まる図書館は、古いなりに清潔感と温かい手作り感が感じられ落ち着く空間として大人も子どもも楽しく学べる居場所になりつつある。WebOPACの機能も使いこなせると日常的に図書館と繋がり、今後の読書推進力が期待される。

少しでも良いものだというスタッフの思いが全体的に感じられた。

伊藤公資料館では雨漏り個所の現場を視察。

扱うものが歴史的資料でもあり早期改修が望まれるが、財政的な配分も踏まえ苦慮する所だが、早急に対処すべきものも見受けられた。

旧邸宅や生家の維持管理費など今後の管理計画の見通しも考えねばならない。

所 感（四浦 順一郎）

<クラウド型図書館システムの導入>

光市立図書館では、平成9年にパソコン通信による蔵書検索を開始し、13年にはインターネットによる蔵書検索開始、今年3月から約1千7百万円の予算をかけてクラウド型システムを導入した。クラウド型システムとは、外部のデータセンターにあるシステムをサービスとして利用するもので、職員の維持・運用管理の手間が省け、災害時の業務継続対策に有効という。

本棚などに設置されたプレートにスマートフォンやタブレットでタッチして図書館の本とインターネット情報を探索するカーリルタッチが導入された。

その他、「お気に入りの本」や「またの機会に読みたい本」など個人的な読書リストである「マイ本棚」を作り、保存することができるという。

今後の予定として、児童コーナーに子ども用タッチパネル式図書検索端末の新設が計画され、リスが走って該当図書棚を案内するパネル表示があり、楽しく利用できる企画も準備されている。ネットの時代にふさわしいシステム再構築だと受けとめた。

同時に、光市立図書館の本・資料総数約19万点のうち、常時手に取って見られる開架はわずか約5万6千点で、狭くて古い図書館の建て替えを痛感した視察でもあった。ホームページに紹介されている図書館運営協議会記録では委員から繰り返し近隣の新設図書館の視察要望がでているにもかかわらず、いまだに実現していない。私自身も、本視察にあたって、下松市新図書館の視察を希望したが、実現しなかった。総務市民文教委員会協議会において、さらに強く要望したい。

<伊藤公資料館の雨漏り工事>

板金桶の亀裂や穴が点在するなど、資料館各所で雨漏りが発生し、修繕料が予算計上され、屋根の桶の改修や幕板のジョイント部のコーキング更新等が計画されている。

本補修工事の計画は専門家、専門業者にまかせるべきで、議会視察の対象となるかどうか疑問であった。委員会協議会の真剣な議論が大事と痛感した。